令和３年度茨城県地域日本語教育の体制づくりに係る総合調整会議（第３回）

１　日　　時：令和４年２月２５日（金）　１４：１５～１５：２０

２　開催方法：オンライン

３　協議内容：
　令和３年度事業実施結果について

４　出席者：
【座　長】金久保紀子（学校法人東北外語学園東北外語観光専門学校 交流センター）
【副座長】伊藤秀明（筑波大学）
【構成員】西原鈴子（特定非営利法人日本語教育研究所）、加藤雅春（(公財)茨城県国際交流協会）、廣江哲也（茨城県外国人材支援センター）、飯野令子（常磐大学）、松浦みゆき（日立さくら日本語学校）、髙橋日出男（経営者協会）、レ・ヴァン・タン（茨城県ベトナム人協会）、酒井和二（労働政策課）安達美和子（女性活躍・県民協働課）　以上　敬称略、名簿順

５　結果：
令和３年度事業実施結果について
【女性活躍・県民協働課説明内容】
　地域日本語教育の体制づくり推進事業について実施結果を報告した。
（１）総合調整会議
　地域日本語教育に係る連携体制や施策の方向性の検討等を実施。
　第１回：６月２５日（地域日本語ボランティア教室の活動事例紹介、令和３年度の事業概要等について）
　第２回：１１月２６日（令和３年度事業の進捗について、地域日本語教育の体制づくり事業推進に係る意見交換（空白地域の市町が抱える課題解決に向けて、日本語学習支援者の掘り起しについて、企業一丸となった外国人従業員への日本語学習支援について）
　第３回：２月２５日（令和３年度事業実施結果について）
（２）日本語教室とのネットワークづくり・運営支援【茨城県国際交流協会へ委託】
○総括コーディネーターの設置（茨城県国際交流協会職員）
　地域日本語教育コーディネーターの意見や活動の成果を県の施策に反映させるとともに本事業への提言・助言を行った。
○地域日本語教育関係者連絡会議の実施
　日本語教育に係る行政情報の伝達や情報交換、連携体制の構築・強化等を図ることを目的に実施した。
　実施日：９月１８日、９月２１日、９月２８日、１０月９日
　内容：

・茨城県における地域日本語教育の体制づくりの方向性について
（茨城県県民生活環境部女性活躍・県民協働課、（公財）茨城県国際交流協会）
・地域日本語教育に関連した研修
テーマ　「対話から始める地域の教室」～活動例を通して～
講　師　　公益社団法人国際日本語普及協会 AJALT 所属
日本語教師　松尾 恭子 氏

〇日本語学習支援者養成講座の実施
講義、事例紹介、意見交換を通して、外国人市民に寄り添う日本語学習支援者を養成するための講座を実施した。
・秋講座：「新しい茨城町・城里町ほかのための日本語支援を考える会」
・冬講座：「新しい茨城　わたしたちの地域のための日本語支援を考える会」

〇地域日本語教育コーディネーターとの連携
文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者のうち活動可能な方に本事業の推進に御協力いただいた。

（３）空白地域解消に向けた取組
〇空白地域の市町に対するヒアリング調査の実施
（ヒアリング内容）
・管内の在住外国人の状況について
・市町における多文化共生施策の実施について（取組の有無、取組の内容）
・地域日本語教育に対する認識（県や県国際交流協会が開催する会議等への参加状況、日本語教室の必要性について等）

〇総合調整会議結果を市町村と情報共有
〇空白地域解消を議題とした文化庁主催の会議開催等を市町村へ情報提供

（４）その他
〇茨城県庁職員向け「やさしい日本語基礎講座」の実施
・やさしい日本語（書き言葉編）１月１８日（火）
・やさしい日本語（話し言葉編）１月１９日（水）

【労働政策課説明】
茨城県日本語学習支援 e-ラーニングシステム事業の実施状況について報告した。
・対応言語：４カ国語（英語、インドネシア語、ベトナム語、ミャンマー語、モンゴル語）
・ひらがな・カタカナ、漢字の読み書き、日常会話等、日本語学習の基礎となる入門コースからビジネス日本　語及びビジネスマナーが学習できるコースまでさまざまな学習コンテンツを提供。
・パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットでも 24 時間 365 日学習が可能。
・企業担当者は管理者機能を用いて、外国人従業員の学習の進捗やログイン頻度を確認可能。
・令和３年８月より、e-ラーニングシステムを使った学習時間上位者のランキン

グ、及び他の学習者に対するメッセージを公開。

・職場内における総合的な日本語コミュニケーション能力（読む・聞く・書く・話す)、日本語学習モチベーション向上等を目的として、県内企業２社を伴走支援。

・外国人従業員に日本語学習を一任するのではなく、企業一丸となった e-ラーニングシステムの活用モデルケースを創出。

・（企業で働く外国人から）勉強の機会を通じて社内でのコミュニケーションの場が増えたという話を聞いた。これまで接することがなかった人との話題が増えたり、他部署の人とやりとりをすることで外国人材と接することがなかった人も仲良くなれたというか、会社の仕事が楽しくなったという声を日本人の社員からもいただいた。

その他、総括コーディネーター２名から本年度の活動実績について報告があった。

【構成員からの主な発言】

・日本語学習支援者養成講座には、日本語が母語でない方が参加された。日本語の支援者養成ということだが、支援者の中にもともと日本語が母語でない方が入ってくるということが大変重要で大事なことだなと思う。

・（日本語学習支援 e-ラーニングシステムについて）本人たちにとっても（企業から）日本語の支援をしてもらうことで、仲間ができるだとか楽しくなったこともあるという一方で、受け入れている方たちも変化がみられるのかと思う。

・「地域日本語教育」というとどうしても生活している成人の方のイメージが強いが、そこに住んでいる子どもたちへのフォローというところも次への取り組みとしてあるといいのかなと思う。